

「自分たちでできること」 - 自分のために・仲間のために -

平成25年度「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」スタート!

8年目となる今年度は、会議の名称を「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」と変更し、いじめ問題について子どもたちの意見を活かし、子どもたちの力によって活動を進めていくために、今まで以上に子どもの目線でこの会議を進めてまいります。

今年度第1回目の会議は、平成25年7月30日火曜日、大津合同庁舎7階会議室にて開催しました。子ども委員12名を含む22名の委員の皆さんに出席していただき活発な意見交換ができました。



第1回「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」(平成25年7月30日)

～各校の取組紹介～

まず、全体会で各学校のいじめの問題についての取組や現状等について、子ども委員から発表がありました。

高等学校

- ・生徒会執行部と先生方とで毎週水曜日に校門前であいさつ運動を行っています。生徒の細かな変化に先生方が気づくことができます。最近では、生徒会役員以外の生徒もこの運動に参加してくれています。
- ・いじめ防止のために生徒会と先生方が協力しています。先生方は生徒の話に耳を傾けてくださっています。
- ・人権ロングホームルームを年間3～4回行っています。1年生は携帯電話でのいじめについて話し合いが行われています。
- ・校内にいじめ防止のポスターを掲示し、のぼりを設置しています。
- ・体育大会と文化祭ではクラスの仲間づくりを進めています。
- ・人権委員会では月に1回以上の取組を行っています。人権標語やポスターを作成したり、人権啓発だよりを作ったりもしています。このたよりは、生徒の目線で作成しており、多くの生徒が読んでくれています。人権意識の向上につながっています。
- ・人権委員会では年1回アンケートを実施しています。また、月1回人権だよりを発行しています。
- ・人権について考えたことを標語やポスターで表現し、校内に掲示しています。
- ・協力することを大切に考えて体育祭や文化祭を実施しています。



中学校

- ・私たちの学校には人権宣言があります。生徒にアンケートを行い、それをもとに学級で討議を行い、その内容を生徒会で集約し、この人権宣言が数年前に作られたと聞いています。
- ・週に1回校門前であいさつ運動をしています。
- ・「みんなの声が聞きたい」という運動をしています。用紙を配付しておき、何かあれば自由に記入し、学年に1つある回収ボックスに入れてもらいます。それを生徒会で回収、集計し、場合によっては毎日発行している日刊新聞の中で全校にも呼びかけられています。
- ・生徒がつながるための、体育会、文化祭、合唱祭を行うようにしています。また、学年レクレーションも実施しています。
- ・学校生活をより良くするためのアンケートを実施しています。悩んでいることや逆に友人関係等で嬉しかったことなど、毎週発行している生徒会通信で紹介しています。生徒全員が実態を知ること、思いやりが持てるようになると考え行いました。
- ・いじめ撲滅週間を実施しました。この期間中、各委員会でいじめ撲滅につながる取組を行いました。文化図書委員会では友情に関する本の紹介、生活向上委員会では朝のあいさつ運動、報道委員会ではリラックスできる曲の放送、保健体育委員会ではいじめゼロのポスターづくり、総務では人権に関する標語作りを行いました。
- ・総務執行部で各委員会の委員長・副委員長を集め、会議を行いました。生徒会としていじめ問題に対して、どうしていくべきかということを話し合いました。



小学校

- ・4月に学級でどんな学校にしていきたいかということ話し合い、代表委員会で全校から集まった意見をもとにスローガンを決めました。今年度は6月の全校集会でスローガンを発表し、校舎内に掲示しています。
- ・企画委員会ではあいさつ運動を行っています。今年度は他の人たちにも参加してもらおうとしています。気持ちのよいあいさつをした人には「あいさつスーパースター」として紹介をしています。この取組のおかげであいさつが大きくなりました。
- ・月1回、遊びの時間があります。全校が12班に分かれて、高学年が遊びを考え、異学年で遊んでいます。
- ・学校のスローガンを作っています。学級のみんなの意見をまとめ、代表委員会で作ります。このスローガンをもとにそれぞれの学級で、ひとりひとりの思いが出せる学級になるよう取り組みます。
- ・虹色人権集会でいじめや仲間はずれをなくす取組をしています。各学級での人権学習や劇の鑑賞などを行いました。いじめのない学校づくりに取り組んでいます。
- ・異学年交流(交流学級)の取組をしています。上学年と下学年が交流することで絆を深め、いじめのない仲間を作っています。
- ・より良い学校にするためのスローガンを作り、取り組んでいます。ルールを守る、よいところを見つけ、考えて行動する、この3つを中心に活動しています。よいところ見つけでは、仲間のよさを再発見し、クラスの絆が深まります。4月に比べクラスの雰囲気はよくなりました。
- ・生活委員会が中心になり、あいさつ運動・ろうか歩行週間に取り組んでいます。普段からルールを守ることが、みんなが安心できる学校づくりにつながります。
- ・縦割り委員会では、高学年がリーダーとなって全校のみんなが仲よくなれるための活動を行っています。
- ・月に1回スマイルウィークがあります。みんなが笑顔になるために振り返るという1週間です。



～グループ協議～

3つのグループに分かれ、子ども委員と大人委員がいじめについての意見交換を行いました。子ども委員さんから寄せられた多くの意見の一部を紹介します。

1グループ

なぜいじめは起こるのか。

- ・自分が優位に立つと気持ちが良いので、弱い人、弱いところ（運動が苦手、容姿のコンプレックス等）を見つけていじめます。いじめのような関係でしかコミュニケーションがとれない人がいる。
- ・学年が上がるに連れて、いじめの中心人物が、周りからウザイと思われて仲間外れになることがある。
- ・3人の女子のグループでは、2対1になることが多く、1人に対する悪口を言うことで一時2人の仲間意識が高まるが、関係性が変わって別の者が仲間外れになることも多い。
- ・勉強等ができる人に対して、ひがみから仲間外れ等のいじめが起こる。違いや個性を認めないところがある。
- ・SNSでは、相手の顔、表情、雰囲気が見えないので悪口を書きやすく、いじめにつながる。

いじめに対応するにはどうすればいいのか。

- ・小学校の時にいじめられていたが、先生に言うことでいじめが収まったので、先生に早く言った方がよい。いじめがエスカレートしてからは、言いにくくなる。
- ・中学校、高校になると、教科によって担当する先生が違うので、関係が薄くなる。担任や部活動の顧問など話ができる先生との機会を見つけることが大事である。
- ・悪口を言っている人がいても、周りが「悪口はいけない」と言えば、いじめを許さない人の数が多くなるので、悪口、いじめが起こりにくくなる。
- ・一部の人やグループの意見だけが通らずに、みんなの意見を尊重したりするクラスの雰囲気やリーダーが必要である。
- ・友達から愚痴、悪口を聴いても受け止めて、周りに広めないようにすることが大切である。



2グループ

なぜいじめは起こるのか。

- ・はじめは「からかい」から始まる。そのことがおもしろくなり周囲のものが加わり「いじめ」に発展していく。
- ・いじめの方が仲間を増やしているからだんだんエスカレートしていく。
- ・「自分は悪くない」「あいつがやったんやから仕方がない」と、いじめの方はもしかしたら思っているのかもしれない。
- ・いやがっている姿を見ているのがおもしろいからいじている。
- ・その人に嫉妬しているのかもしれない。ねたんでいるのかも。良くて悪くて人と違うといじめられるのかもしれない。
- ・遊びがいじめに発展していく。いじめをしているという感覚がないように思える。
- ・ターゲットはいつも同じ子が多い。
- ・いじている子はいじめているという認識でなく、からかっている認識だけ。
- ・見ている周囲の子はいじめと認識していると思う。でもとめられない。
- ・友達とつきあうためには、いじめられる方を選んでるようだ。いじめられながらの友達関係である。
- ・無視されるよりましだ。いじめで関わっているほうがまだましだ。
- ・いじめられている方は、何か自分が悪いことをしたんだと思うようになってくる。
- ・いじめは誰にも起こりうると思うし、いじめる、いじめられるが逆転することもある。
- ・いじめは急に始まるものである。
- ・スマートフォンのSNSでもからかいからいじめになりうる。



いじめを止めることはできないか。

- ・いじめを止めようという気持ちはあるが、「こわい」「言ったら逆に言われる」「自分がいじめられる」という気持ちが邪魔をする。
- ・いじめを見たら先生に言うことはできるが、自分で止めることはできない。
- ・学校に話しやすい場所や時間がありその時に先生に話すことができる。
- ・部活動の中でのいじめ、先輩に止めてもらった。年上から年下には注意ができるのかもしれない。同級生は言いにくい。
- ・いじめられている人に先生が聞いても、「いじめられていません」「大丈夫です」と言うだろう。

3グループ

いじめは、なぜ起こるのか。

- ・「思いのすれちがい」から起こると思う。いじめが解決した後、二人の関係が修復できるのかも気になる。
- ・「これくらいなら、いい」という気のゆるみが原因だと思う。周りが黙認すると、さらに大きくなる。誰かが止めたり、声をかけるべきだと思う。
- ・「ある人のことが嫌い。」という発言が、広がっていくことがある。
- ・いじめが起こると、今度は自分の番かもと考えてとても心配になる。やっている方は、ただ、ふざけているぐらいの感覚なのに。
- ・高校だと、あれはいじめとわかっていても、今度は自分が同じような目に遭うのではと考えてしまう。
- ・いじめが起こって、それが集団化してしまうのがこわい。どこからがいじめなのか、境界が人によって違う。小さな段階から相談すれば、早く解決できると思う。

いじめが起こっていることに、先生が気づいていないことがあるのか。

- ・あると思う。
- ・聞いてもらえる友だちがいるから、それで楽になる。親に相談する人もいる。学校の先生は話せる人と話しくい人がある。だれにも話さず、自分で抱え込んでしまう人もいる。
- ・高校生になると、親に話さないことも多い。友だちにも話さず、抱え込んでしまう人もいる。
- ・中学校のときに、友だちと話さなくなって先生に相談したが、それが名前を伏せた形で、全体に話されたことがあったのは嫌だった。
- ・先生に話しかけてもらいたいこともある。放課後等の時間にしっかり聞いてもらえるとうれしい。
- ・同じ年の人に話すとうれしくもらえる。保護者だと、頭ごなしに否定されることがある。そうだと、話さなくなる。
- ・いじめられていることを受け入れられない人も多い。話すことで状況が悪くなることもある。



～会議を終えて(委員長より)～

直接子どもたちの意見を聞かないと、わからないことはたくさんあるということをおぼろげに認識しました。この会議では、子どもたちの意見を大切にしたいと考えています。子どもたちの意見を活かし、子どもたちの力によって活動を進めていくためには、大人の理解と支えも必要です。子どもと大人の信頼関係を大切にしながら、子どもたちが安心して活動できる環境を作っていきたいと考えております。

大人委員の皆さんにおかれましては、それぞれが所属されておられるところで今日の子どもたちの意見を発信いただき御議論いただければ幸いです。

次回は子ども委員によるパネルディスカッションと大人委員との合同の会議を予定しております。どうぞよろしくお願ひします。

「自分たちでできること」 - 自分のために・仲間のために -



平成25年度「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」 ～今年度2回目の会議を開催しました～

平成25年9月21日土曜日、栗東市の栗東芸術文化会館さきらにおいて、今年度2回目の「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」を開催いたしました。今回は二部構成で行い、第一部では、より多くの県民の皆さんに、いじめの問題について考えていただけるよう、「じんけんフェスタしが2013」(主催: 滋賀県/滋賀県人権啓発活動ネットワーク協議会)のイベントプログラムの1つとして、児童・生徒委員による公開パネルディスカッションを行いました。その後の第二部では、大人委員と児童・生徒委員との合同会議を実施し、いじめの問題について、「子ども自身でできること」「子どもと大人が協力してできること」「大人ができること」について協議しました。



第一部 児童・生徒委員によるパネルディスカッション (中ホール)

～児童・生徒委員の意見より～

いじめとは何？



○いじめとは相手の心や体を傷つける行為。 ○やられた人が不快に感じればいじめ。 ○学校で、やられた人がいやな思いをしただけでいじめと習った。 ○大人数でやられている場合はいじめ。 ○相手からされて不快に思ったらいじめ。 ○ノリでふざけあっているのが、いつのまにかいじめに変わる。ノリで言われたことが、ものすごく気にしていることだったりする。境界がむずかしい。 ○いじっているのか、いじめられているのかは本人にしか分からない。いや、本人にも分からない。 ○教室で、人が上に上にと積み重なって悪ふざけをしていても、一番下の人が笑っている場合もありわかりにくい。 ○いじめられている人が決まっている。 ○身体的特徴等が理由で、いじられる、いじられやすい人がある。 ○走りが遅い、体が大きい等の理由から不快なあだ名をつけられることがある。

○イベントで全員リレー、抜かされた人、などミスした人がターゲットになる。○マイナス面だけではなく、走りが速かったり、テストの点がよかったりした場合もいじめのターゲットになる。 ○図工の作品でよかったり、スピーチでよかったりした人がいじめられる。展覧会で上手だったりしてもいじめられる。相手から見れば調子に乗っていると思われる。 ○テストの平均を越えた人がすごく喜んでいたら、調子に乗るなど周りに言われる。 ○いい賞はとらず、足も速くもなく遅くもなく、絵とかも普通に。中間でいることがいい。 ○クラス内でいじめがなかったら、賞を取りに行く。 ○いじられるかはその人の性格。自慢げになっている人はいじめられる。 ○自分の周りの友だちの問題。秀でているところを認めているか。友だちが賞をとった時でも、一緒に喜んであげることが大事。

いじめの種類は
どんなのがあるの？



SNSのいじめはあるの？



○いじめはある。顔が見えないので、目茶苦茶な愚痴とか、誰がウザイとかうとうといとかの内容。ばれなかったらそのまま。 ○うとうしい人が入ってきたら退会させる。 ○強制的に退会させられる。ちょっと前までは誰が退会させたか分からなかった。 ○名前が分からないものもある。一人が悪口を書き込んだらどんどん広がる。普段はあまり悪口を言わない人が、ネット上で悪口をどんどん言っている。 ○学校裏サイトというのは今は聞いたことがない。 ○ドラマのようなスクールカーストやランキングはあると思う。 ○休み時間に一人で読書している人などがいて、ランキングのようなことがわかることもある。 ○クラス内に強い存在の人がいて、その人がいじめのようなことをすれば、みんなそれに従うことが多い。 ○暴力を振るいそうな人が上で、クラスを仕切っていたということはある。 ○小学校では、ドラマをきっかけにランキングのようなことがはあったことがある。

○悪口というよりは愚痴。それが漏れることもある。大人が酒を飲みながら愚痴を言うのと一緒。 ○ストレスが多い。勉強はストレス。 ○親から「勉強、勉強。」と言われる。 ○自分がしようと思っていることを親に疎外される。仕事から帰って、寝そべりながら、「勉強しろ。」と言われると腹が立つ。 ○買い物に行くと、「これほしい。」と言っても、「前買ったやつと一緒にや。」と親に言われる。 ○友だちが言ったことで、ストレスがたまる。 ○クラス児童がやってはいけないことをしたので注意したら、いやなことを言ってくるとストレスになる。 ○中間でいることにストレスを感じる。 ○クラス内で、自分はずるさくしてないのに、「うるさい。」と言われるとストレスを感じる。

なぜネットいじめは
あるの？



ストレスからいじめ
になることはあるの？



○なくはない。 ○その人のことで、ストレスがたまっている時に、その人から何か言われたら、その人に全部ぶちまける。止められない。 ○突然だれかに八つ当たりをみんなの前でしたりしたら、その人がいじめられる。 ○小学校でいじめていた人が、中学校でいじめられている。いじめというよりは無視。 ○仲間は最初は無視。その次に言ったりしていく。 ○大勢でサッカーしていて、あとから来た人がそこにいれてと言っても無視される。 ○SNSで返事しない。 ○主犯格が無視を命令。ある日突然、いじめがはじまる。された子はわからない。自分もいつされるかわからない。 ○倍返しはテレビでやっているから使ってみたことがある。

暴力はないの？



○自転車で強く頭を押し
たりしている。本人がいや
がっているのを見たことが
ある。 ○ノリでの暴力は
あるが、本気の暴力は一切
聞かない。 ○小学校まで
は暴力があったが、中高は精
神的なものが多い。 ○遊び感覚での暴力
はある。 ○暴力ふるう人は決まっている。
小学校でも精神的なものの方が多い。

いじめを発見する
には？



○学級全体で一度話す。
○本人が言えば発見できる。
○周りで知っている人はいる
と思う。勇気を出して言う。
○教科担当教諭も授業の中で
気づき、担任と情報を共有し
てほしい。
○信頼できる先生を見つける。
○いじめになりかけても、生徒間で解決する。
○相談するのは、友だち、親。

〔だれに〕
○担任・・・・・・・・6人
○担任以外の先生、親、友
だちに分かれた。

〔動いてくれなかったら〕
○学校の他の先生に頼む。
○相談電話のサービスを使
う。
○生徒指導の先生に言う。

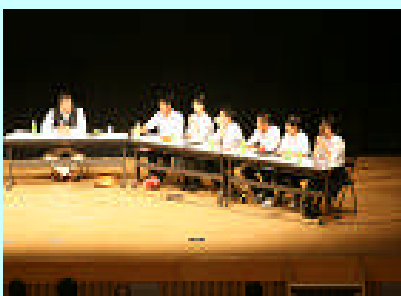
いじめの相談はだれ
に？相談しても担任
が動いてくれなかつ
たら？



相談する以外の
解決方法ないのか？



○周りの人に気づいてもらう。
○大勢の中のようにする。
先生のそばにいる。 ○少し
の期間休んで、その間に先生
に対応してもらう。 ○重く
考えずに、いつかは終わるで
しょうと思う。 ○我慢する。 ○SNSを
使う。面と向かって言えないことが言える。
○いじめた人とは仲直りはしたくない。
○クラス内であれば、クラス外で友だちを作る。



～子ども自身でできること～

- ・できるだけいじめを見つけなくす。
- ・いじめられている人の相談に乗ってあげる。
- ・自分がいじめられていたら、助けを求める。
- ・いじめられている人の味方になる。
- ・いじめを見つけて大人に報告する。
- ・自分の弟や妹にいじめはいけないことを教える。
- ・いじめられている人に聞いて、学級会を開くように言う。
- ・早めに変化に気づき、大人に報告する。
- ・本当に信頼できる友だちを作る。
- ・誰かに「無視しろ。」と言われても、友だちとは「しない。」と決める。
- ・見て見ぬふりはしない。
- ・とりあえず何か行動を起こす。
- ・誰とでもしゃべるようにし、様子の変化を探る。
- ・いいところを見つけるようにする。自分からいじめを起こさない。
- ・周りとの違いを一人一人が理解し、自分をしっかりと持つ。

～子どもと大人が協力してできること～

- ・子どもと大人と一緒に考える場をつくり、子どもの現状を知る。
- ・大人と相談しあえて、アドバイスを受けて動く。
- ・校内にしゃべる場をつくる。
- ・子どもも大人も注意を払い、どっちなで見つける。
- ・一緒に解決方法を探る場をつくる。
- ・パネルディスカッションのような場をつくり、司会を子どもがやる。
- ・いじめを見かけたら、なぜ起きたのかを考える場をつくる。
- ・大人と子どもがふれあう場をつくり、大人と子どもが親しくなる。地域行事に参加する。

～大人にしてほしいこと～

- ・いじめを見つけしてほしい。
- ・声をかけてほしい。
- ・いじめに気づいて、話を聞いてほしい。「いじめがこの学校にはありません。」と言わない。
- ・相談電話を増やし、手紙とかでも相談できるようにしてほしい。
- ・すぐに相談に乗り、アドバイスをしてほしい。
- ・困っていたら声をかけてほしい。
- ・大人が解決できるというよりは、解決に向けて努力してほしい。
- ・相談は必ず聞いてほしい。
- ・完全に大人に解決できるとは思わないが、一時的にでも止めてほしい。
- ・特に近い大人が、真剣に考えてほしい。
- ・先生と大人が仲良くなってほしい。
- ・いじめの恐ろしさなどを伝え、いじめが止められるような子どもを育ててほしい。

第二部 児童・生徒委員と大人委員による合同会議（一階会議室）

～大人委員の意見より～

この後、大人委員の方々からパネルディスカッションでの児童・生徒委員の意見をもとに、何ができるかを
お出しいただきました。子どもだけでできること、大人だけでできること、子どもと大人とでできることは何
か、さらに議論を深めていただきました。

- ・みなさんの本音の話を聞いてなるほどと思った。昔と今とでは随分変わった。
- ・みなさんの社会と同じで、大人の世界でもある。言いたいことを我慢していることもある。
- ・保護者全体がいじめを許さない空気が必要である。
- ・保護者は子どもの話を聞く環境づくり家庭づくりが大事である。
- ・みなさんのそれぞれの学校で取組を進めてほしい。
- ・家庭と仕事の両立は母親としても大変である。家庭のルールも理解した上で親の意見も聞き入れてほしい。
- ・高校生という将来の夢を持つ子もいれば、そうでないこともある。
- ・親としてどう声をかければよいのかわからないこともある。子どもの思いと大人の思いが通じないときがある。
- ・親として子の成長は嬉しいことだけれど、親を離れていくのは寂しいこともある。話を聞いてほしい。
- ・現代のゲームやSNSについてはわからないことが多い。子どもたちに教わらないといけないと感じた。
- ・今の子どもは昔のサラリーマン化しているような気がする。少し寂しい気がする。
- ・全力で取り組むことが恥ずかしいという時代になってきているのは寂しい気がする。
- ・子どものサインを見落とさないということが、今日のパネルディスカッションの大きなキーワードであったかと思う。子ども会としてはネットワークづくりに力を入れるべきだと思う。
- ・子どもたちの困っている悩んでいるというサインを見落とさないように生活したい。
- ・学校でのあいさつ運動は、大切なことである。まずは簡単なことから取り組んでいくべきだと思った。あいさつから感じ取ることもあり、大切だと思う。
- ・学校の教師の役割の大切さをあらためて感じた。教師が子どもを見守って、いつでも相談にのれる体制を作ることが大切である。
- ・いじめというのは大人には見えにくい。子どもたちにいじめを見逃さない、許さないということを教えていくことが大切である。人を思いやる優しい気持ちを育てていくことが教育の使命である。
- ・ある学校では、子どもたちが携帯の使い方を子どもたち自身が考えて提案して取組をしている。自分たちが自主規制していくことは大切。
- ・正しいことに導いていくことは大切だと思う。
- ・いじられていることは、本人も相手もわかっていないことから始まっている。
- ・目立つことがいじめの発端となっている。中間にいるような人にはなってしまうのではない。よい方をめざして、よかったことをみんなで認めてやれるような風土が大事。
- ・それぞれの違いを理解し、認め支え合う集団を作っていけるように、それぞれの学校では取り組んでいる。
- ・携帯電話等は中学生になると6割以上持っている状況である。SNSでいろんなトラブルが起こっている。
- ・これらの問題の中で、やはりネットや言葉によるいじめが多いかなと感じた。そういったものがない集団づくりをしていかないといけないと思う。
- ・先生自身もいじめを見抜く感性を磨くことに取り組んでいきたい。
- ・いじめのない学校にするため、先生と生徒がいっしょになって取り組んでいきたい。
- ・SNS等、教員から見えないところでいじめが起こっていることがよくわかった。
- ・小学校ではゲームの中でもいじめが起こっている。モンスターハンターのゲームの中でいじめが起こっていることがあった。こういったことは大人には見えない。
- ・とても嬉しかったのは大人の人に相談したいという声が多かったこと。大人が信頼されていると感じた。だから、大人もしっかり取り組んでいく必要がある。
- ・小学校からみんな違っていいということを伝えてきているが、現実はそうになっていないと感じた。あらためて学校でしっかり取り組んでいかないといけないと感じた。
- ・先生と話す大切さを感じた。本校では「おしゃべり週間」というのがあって、その中で、悩みや普段言えないことを拾い上げていきたい。
- ・今日の子どもの意見は、校長会の会議ですべての小学校に伝えていきたい。
- ・自分のできることとして、中学生委員さんから、周りの人との違いを理解して自分を見つめたいと話された。議論を通して自分の考えを変えていこうという姿がすばらしい。大人の自分もそうありたい。
- ・周りとなるべく違わないように中間がいいということについては、大きく受け止めていきたい。互いの違いを認め合い、その違いを豊かさに変えていくという人権教育、多様性教育の大きな目標に取り組んでいるが、そこのところが十分でなかったということが今日の意見から感じているところである。



～会議を終えて(委員長より)～

子どもと大人の話し合う大切さを今日の会議であらためて感じました。貴重な意見から教育委員会でもなにかできることを考えていきます。子ども委員の皆さんはさらに各学校での取組を進めてください。大人委員の皆さんも子どもにできる支援として検討いただき、具体的な行動につなげてほしいと思います。これからのみなさんの取組について、次回12月の第3回目の会議で御報告をいただきたいと考えています。本日はありがとうございました。

「自分たちでできること」 —自分のために・仲間のために—

平成25年度「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」 —今年度最後の会議を開催しました—

平成25年12月26日木曜日、今年度3回目(最終)の「子どもによる滋賀県いじめ対策チーム会議」を開催しました。第1回目は、児童生徒委員より各学校のいじめの問題についての取組や現状について紹介があり、「いじめはなぜ起こるのか。」「いじめを止めることはなぜできないのか。」等について大人委員と協議しました。第2回目は児童生徒委員による公開パネルディスカッション、その後大人委員と一緒に会議を行い、「子ども自身でできること」「子どもと大人が協力してできること」「大人ができること」について議論を深めました。

今回は、これまでの2回の会議を受けて、それぞれの学校や立場で本年度取り組んだことについて紹介し、その後現在の「ストップいじめアクションプラン」について意見交流しました。



本年度の取組

小学校の取組



- ・各クラスでいじめについて話し合いを行った取組を紹介。
- ・虹色人権集会での取組(人権劇・人権作文発表)の紹介と、本会議で学んだことを全校に伝達していくことを報告。

- ・いじめ対策チーム会議で学んだことと全校からのいじめアンケート結果をVTRにまとめ、人権週間中に全校テレビ放送を行った取組を紹介。
- ・今後の企画委員会の取組を紹介。



- ・縦割り活動(色別遊び・運動会全校種目)での取組を紹介。
- ・人権週間での取組を紹介。
- ・フェスティバルでの地域の方、保護者、児童が一緒になっての取り組んだ様子を紹介。

中学校の取組



- ・人権週間での人権劇の取組を紹介。また、本会議で学んだことについて学校で発表したことを報告。
- ・友達のSOSをキャッチし、より良い学校にするための「キャッチ・ザ・ハート」の取組について紹介。

- ・約30年間続く「生徒会新聞」を活用し、生徒会に生徒間のつながりを作ることをめざした取組を紹介。
- ・AKM(頭[頭髪の違反]、携帯、漫画)ゼロ運動、あいさつ運動等の取組を紹介。



- ・東京で行われた「全国中学生生徒会サミット2013」に参加して2日間にわたりいじめについて話し合われた内容を紹介。
- ・サミットで決まったアクションを学校で実施することや、いじめなどの人権に関するDVDを全校で視聴することの実施計画を発表。

高等学校の取組



- ・いじめ、人権を考える委員会としての司法委員会(生徒会直轄の委員会)の取組を紹介。
- ・人権週間での取組(SHRでの全校放送・生徒会執行部での討議)を紹介。



- ・体育祭での取組(団旗の作成)を紹介。
- ・人権委員会の行った取組の中から、「人権メッセージ」の取組を紹介。



- ・生徒会でのあいさつ運動の取組を紹介。
- ・人権委員会による取組(ポスター作成、人権だより作成)を紹介。人権だよりから、生徒の意見を紹介。

PTA・子ども会の取組



- ・それぞれの地域でどうしたらいじめがなくなるのか、人権が守れるのかを考える研修会を展開している。
- ・より多くの方が参加いただける研修会にしていきたい。
- ・スマホについて大人も勉強できる機会を計画していきたい。



- ・スマホ、SNSでのいじめやトラブル等について県内の公立高等学校長、PTA会長に向けた研修会を行った。
- ・このことについて今後保護者への啓発が必要である。



- ・地域が一緒に参加できる学校づくりが必要である。
- ・豊かな体験活動や子どもを見守る活動を展開している。
- ・ストップいじめアクションプランを活用した研修会を計画していきたい。

校長会の取組



- ・多くの教員が子どものSOSをキャッチできる感度を高め、情報共有をできるようにしている。また、面談やアンケートの回数を増やし、内容を検討し、早期発見に努めている。
- ・子どもたち自身が互いに「いじめを許さない」といえるようになるための取組をしている。
- ・スマホ、SNSについて、教員、保護者、生徒がそれぞれに研修している。



- ・いじめをしない、させない、許さない環境づくりを行っている。(互いに支え合い、高め合い、認め合える集団づくり)
- ・いじめについて、生徒会を中心とした取組を各学校で取り組んでいる。また、地域と一緒に取組も展開している。



- ・郡市代表校長会でもいじめ問題について研修を行ってきた。この会議での児童生徒委員の意見等も報告している。
- ・また、各地区の校長会でも実践交流をしている。
- ・いじめを許さない気運を高め、安心して相談できる学校づくりに各校が取り組んでいる。

最後にストップいじめアクションプランについて意見交流しました。



～会議を終えて(委員長より)～

この1年間本当にありがとうございました。児童生徒委員さんは第1回目の会議では大変緊張してご参加いただいていたのですが、第2回目のシンポジウムでは堂々と発表され、その姿には感動しました。また今日の発表もお聞きし、心強い思いになりました。みなさんのこうした力がなくてはならないと強く感じたところです。

また、大人委員さんは、この会議でのご助言に加え、様々なところで滋賀県のいじめ問題についてお取組いただきありがとうございました。

県教育委員会は、この会議の内容をしっかり受け止めて、滋賀の子どもたちが安心して学校生活を送れるよう取り組んでいきたいと考えていますので、今後もいろいろな場でご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。